

| | |
|---------|--|
| 氏 名 | 中 川 俊 彦 なか がわ とし ひこ |
| 学位の種類 | 医 学 博 士 |
| 学位記番号 | 論 医 博 第 332 号 |
| 学位授与の日付 | 昭 和 42 年 1 月 23 日 |
| 学位授与の要件 | 学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当 |
| 学位論文題目 | Experimental Studies on the Significance of Pathologic Change in Retroperitoneum at Acute Pancreatitis (急性膵炎時の後腹膜腔病変の意義) |
| 論文調査委員 | (主 査) 教 授 本 庄 一 夫 教 授 木 村 忠 司 教 授 半 田 肇 |

論 文 内 容 の 要 旨

犬の実験的膵炎において後腹膜腔病変の果す意義の解明に種々の実験を行なった。

1. 自家胆汁 0.2 cc/kg 注入による膵炎犬は全例生存した。犬の膵を解剖学的に人の膵に類似せしめるため、膵頭上部を後腹膜に縫着したが、全例生存し犬にさしたる影響は与えない。犬の膵後腹膜縫着を行ない、同量の自家胆汁注入により膵炎を起こさすと全例 5～24 時間後に死亡した。

2. 自家胆汁 0.4 cc/kg を注入して得た膵炎犬では血圧は緩徐に下降し、門脈圧は上昇した。後腹膜縫着膵炎犬では血圧は急激に下降し、門脈圧も下降する。

3. Trypsin 250 mg を腹腔内に注入すると血圧は緩徐に下降し、門脈圧は上昇の傾向を示す。後腹膜へ注入すると血圧は前者に比し急激に下降し、門脈圧は下降する。

4. 後腹膜に小切開を加えておき、自家胆汁 0.4 cc/kg 注入して得た後腹膜縫着膵炎犬では非切開群に比して圧変動は緩徐であり、死亡時間も延長する。同様に後腹膜切開の後、Trypsin 250 mg を後腹腔に注入すると、非切開群に比して血圧は緩徐に下降し、門脈圧は上昇する。

5. 非縫着膵炎犬、および後腹膜縫着膵炎犬の後腹腔に存在する神経組織について Bielschowsky 氏鍍銀法—鈴木氏変法および巢鴨氏髓鞘染色法により神経組織学的観察を行なった。

非縫着膵炎犬では後腹腔に存在する神経組織に対して何ら影響を与えず、縫着膵炎犬では節細胞、腹部大動脈周囲、腹部大動脈外膜に分布する神経に変性もしくは病的変化を認めた。これは膵滲出液が節細胞、腹部大動脈周囲、外膜へと浸潤したことを意味し、Stöhr のいう血圧調節機点に影響を与えたものと解される。

以上のことから急性膵炎時の後腹腔病変はショック、特に電撃的に死亡するものに対して重大な意義を有し、併せてその外科的治療は一つの示唆を与えるものと信ずる。

論文審査の結果の要旨

急性膵炎における後腹膜腔の病変意義を検討するため実験した。

犬で自家胆汁 0.2 cc/kg を膵管内に注入しても全例生存する。そこで膵の一部を後腹膜に縫着固定して、人間に類似せしめ、同量の自家胆汁を注入すると全例が短時間で死亡する。

自家胆汁を 0.4 cc/kg を注入すると血圧は緩徐に下降し、門脈圧は上昇する。膵縫着犬では血圧は急激に下降し、門脈圧も下降する。

Trypsin 250 mg を腹腔内に注入すると血圧は緩徐に下降し、門脈圧は上昇の傾向を示す。後腹膜腔に注入すると血圧は急激に下降し、門脈圧も下降する。

膵縫着膵炎犬では後腹膜腔の節細胞、腹部大動脈周囲、腹部大動脈外膜に分布する神経に変性ないしは病的変化が認められる。これは膵炎時の滲出液がこれら神経組織に浸潤したことを意味し、Stöhr のいう血圧調節点に影響を与えるものと解される。

以上の成績から、急性膵炎時の後腹膜病変はショック、特に電撃的に死亡するものに対して重大な意義を有することが判明し、あわせてその外科的療法に一つの示唆を与えるものである。

本論文は学術上有益にして医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。